



令和3年度全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)
国語	書くことに関しては、学習の成果が見られるが、話すこと・聞くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方に関する事項については、不十分な傾向が見られる。
算数	測定、変化と関係に関する内容については、全国平均に近い結果が得られたが、特に図形に関しては、不十分であった。

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きなど生活習慣が整っている児童が多いが、携帯、ゲームを長時間する児童が多い傾向がある。家庭との連携が必要である。 ・自己肯定感は低いが、将来への夢や希望を持っている児童が多い傾向がある。 ・5年生よりICT機器を使っての学習の経験を多くもってきたことがわかり、一人1台の端末を使っての学習の方法やオンライン授業での活用の仕方にも慣れてきていることがわかる。また、それを日常的に学習に生かすよさを感じることができている。これは、今後も各教科等での効果的な活用に生かせるように習慣づけていくことが望ましいと考える。 ・友達と話し合う活動を通して考えを広げたり深めたりする学習が不足しているように感じている傾向が見られるが、コロナ感染予防の中で、「話し合う」活動が制限されてきたことを考えると、これからは、さらに話し合いの工夫や考えの交流の仕方を工夫していく必要がある。また、感染状況に合わせて話し合う活動を取り入れて思考力・表現力を高めていくことが大切であると考え。 ・新型コロナウイルス感染拡大に対して、感染予防を適切に行い、学習を進めることができたことを実感している児童が多い。学校・家庭が連携して予防対策を行い、健康に安全に生活・学習が進められたことがわかる。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・引き続きコロナ感染予防に取り組み、健康で元気に安心して学習活動ができるようにする。 ・基礎学力定着のために、「わかる」「できる」授業の構築をめざす。 ・GIGAスクール構想の推進、ICTの有効活用などを通して、主体的に教材とかかわったり、様々な情報や自分の考えを伝え合ったりすることによって、効率的に学力が高まるようにする。 ・主題研究(食育)を通して、ヒト・モノ・コトとかかわり、体験したり、調べたり、考えを伝えたり、聞いたり、交流したりすることによって、思考力・判断力・表現力を養うようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・これからも、早寝・早起き・朝ごはんをしっかり守って、生活習慣が規則正しく身につくように保護者への理解、協力をよびかける。 ・各家庭と連携し、学年の数×10+10分を目安に家庭学習時間の確保をめざす。 ・スマホ、ゲームをする時間の制限を考慮してもらうように保護者によびかける。
--